

学校アクションプラン最終評価

平成29年度 高岡工芸高等学校アクションプラン - 1 -

重点項目	学習活動		
重点課題	自ら学ぶ学習態度の育成と基礎学力の定着、わかる授業の推進		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・教科中、自ら学習する態度に欠ける生徒がいる。各科目の授業においては、生徒の実態を踏まえながら、指導方法の工夫・改善を進めて分かりやすい授業の推進を図るとともに、生徒の自主的な学習態度の育成と学習意欲の向上を図る必要がある。 ・義務教育範囲の学力が未定着である生徒が半数程度おり(2学年4月の基礎力診断テストで38.6%)、基礎的な学力が不足していることから、授業について内容を十分理解できないことが考えられる。中学校までの基礎的な学力を確実に身に付けさせる必要がある。 ・各種検定や資格の取得に向けた補習を実施するなどして、生徒の資格取得への積極的な取り組みを促し、自ら学習する態度の育成を図っている。 		
達成目標	基礎力診断テストの実施と分析 ・1年生・2年生全員を対象として定期的に基礎力診断テストを実施する。 ・Dゾーン(義務教育範囲未定着)の割合を30%以下とする。	授業の『質向上』のための授業アンケートの実施 ・担当授業の生徒に対して、年1回以上理解度アンケートを実施する。 ・また、ほぼ定着した他の教員の授業を見学する互見授業も実施する。	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎力診断テストの結果を踏まえ、情報交換し関係教科で連携し対策を講じる。 ・基礎力診断テストを学期毎に行うことで、学力の定点観測を行い、小さな目標を増やすことで、継続的な学習を行わせる。 ・朝学習を通して学習時間を確保し、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートにより、生徒自身に学習態度の振り返りをさせるとともに、指導内容の理解度や意欲を把握する。これにより改善点を見つけ、よりわかる授業へ改善する。 ・実施率向上のために各学期に授業アンケート実施月間を設け意識向上を図る。 ・互見授業を実施し、自身の授業を改善する。 	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・予定通り基礎力診断テストを実施することができ、掲示物や試験監督の割り振り、内容の周知など、テストの円滑な運営のための準備を整えることが出来た。 ・テストの結果において、4月と9月にテストを実施した2年生で比較するとD3ゾーンの人数が29人から23人に減少したが、Dゾーン全体では38.7%とほぼ変化は見られなかった。これは中間層で勉強せずに成績が低下した生徒が出たため今後の支援の課題としたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価は教諭58名で48回実施(1年あたり0.83回)。 ・授業見学は教諭58名で61回実施(1人あたり1.05回)。(1月末現在) 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週火曜日と金曜日の朝に10分間の朝学習を行い、その中で工業科は国語と数学、芸術科は国語と英語の振り返りのプリントを行った。 ・長期休暇の宿題として、国語・数学・英語のワークに取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価は、生徒に授業担当者がアンケート形式で実施。また、授業担当者の負担を考え教務部でアンケートの様式を公開し取り組み易いものとしている。 ・授業見学について、お互いに気楽に見学できる環境作りに取り組んだ。 	
評 価	C	朝学習の実施により、学習時間を確保し、学習習慣の定着をある程度推進することが出来た。今年度の対象だったD3ゾーンの生徒など、重点的に指導を行ったゾーンに関しては数値の向上が見られるが、中間層に対しても、家庭での学習時間が増えるよう取り組みを行っていく必要がある。	授業評価 C 授業見学 C <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価票作成の負担増や実施時間の確保など、実施に対して難しい点もあり、実施率が低い。 ・授業見学については目標を達成はしたが、複数回見学した先生が多く、実際に授業見学を行った先生は、58%だった。
学校関係者の意見	○朝学習の効果はすぐに表れないと思うが、生徒自身が身をもって効果が感じられるようにしてほしい。		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ○中間層に関して勉強のモチベーションの維持を行うことも大切であるが、家庭での学習習慣がないもしくは少ない事が問題であると考え。2年生においては、9月の時点で44.5%の生徒が家庭で全く学習をしていないので、この数値を向上させることが次年度の課題であると考え。 ○授業評価アンケートについては、個々の先生で実施は難しいようなので、実施方法を再考するなどし実施率の向上を図ることが重要である。 ○互見授業等により教科内外で連携を図り、情報交換を密にしながら改善を進めていくことが重要である。今後は、どのように授業に生かして改善していくのか等の研修会等を実施しさらなる授業の質の向上を図りたい。 		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

平成29年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -2-

重点項目	学校生活 ～自律から自立へ～			
重点課題	基本的な生活習慣の確立と危機管理能力の育成			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯・タブレットなどの普及に伴い、生徒の取り巻く環境には事件、事故、いじめなど多くの危険が潜んでいる。県教育委員会との連携であるネットパトロールの報告、情報提供などを受け、生徒がトラブルに巻き込まれることの未然防止に努めている。しかしながら、SNS環境はますます複雑になっており、常に情報収集を行い、生徒の危機管理能力の向上に努めていかなければならない。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故件数は、昨年再び目標件数を大きく上回った。幸いに、大きな事故は起きていないが、いつ命に関わるような重大事故が起きるかは分からない。また、いつ加害者になるとも限らない。常に命の大切さとともに、正しいモラル、マナーを伝えていき、生徒自らが危機管理の意識を高めていくように指導していかなければならない。 			
達成目標	ネットパトロールの報告件数の削減		交通事故件数の削減	
	・年間報告件数 20件以下		・年間5件以下	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・各集会毎にSNSに関する情報提供 ・「心」の教育、モラルとマナーの指導 ・携帯安全教室の実施(1年生) ・「いのちの大切さ」を学ぶ教室の実施 ・個別指導 		<ul style="list-style-type: none"> ・各集会毎に交通安全指導 ・自転車点検による安全意識の向上 ・交通安全教室の実施(1年生) ・個別指導 	
達成度	・報告件数 2件(1月19日現在)		・事故件数 9件(1月19日現在)	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯安全教室の実施 ・集会毎に、SNSに関する情報提供 ・個別指導 ・「心」の教育 モラルとマナー指導 		<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室の実施 ・集会毎に、交通安全に対する意識の向上 ・自転車点検による安全意識の向上 	
評 価	A	ネットパトロールからの報告件数はかなり少ない数であった。しかし、情報提供ということで県から連絡いただいたものは、5件ほどある。	D	軽い接触事故が大半であったが、昨年と同等の件数であった。歩行中が1件、自転車乗車中が8件である。また、一人で複数回事故に遭った生徒もいる。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ○18才の生徒にも選挙権があるが、生徒は、社会経験があまりなく、周囲の情報に惑わされることもあると思われる。情報の取捨選択など、より現実的な主権者教育がますます重要になってくる。 ○SNSやネットでのトラブル回避について、家庭と連携してほしい。 			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・常に生徒には「いのち」の大切さを伝え、SNSに関する情報提供、危機管理意識の大切さを伝えていく、危機管理能力の育成が必要であると考えられる。また、生徒の様々な状況把握のためにも、県教育委員会とは連携を図り、全体指導、個別指導と様々な対応が必要と考えられる。 ・交通安全に関する指導も、加害者、被害者になることへの注意喚起、モラル、マナー指導、「命」の教育などを徹底していかなければならない。 			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

平成29年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -3-

重点項目	進路支援	
重点課題	生徒各人が、学校生活をとおり、よりよい勤労観・職業観を身につけ、主体的に進路を選択し決定できる力をはぐくむ	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部では、生徒一人一人の能力や適性に合わせた進路指導を目指しているが、進路担当者と生徒との接点がない(担当授業、部活動)等で就職や進学の見学会議で名前を出されても、どのような生徒か把握していない状況がある。 ・進路指導室には、就職や進学に関する資料があることを生徒には伝えているが、それらを十分に、活用しているとは言い難い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業の就職選考試験は9月16日より開始され、今年度は約140名が民間企業への就職を希望している。 ・民間企業への就職希望者の第一次選考における不合格者数は、平成26年度12人(133/145)、平成27年度8人(127/135)、平成28年度9人(116/125)あった。
達成目標	3学年生徒の進路指導室延べ利用回数	就職希望者第一次選考での不合格者数(民間)
	1000回以上(一人平均3.7回以上)	8人未満
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた進路指導室を目指して、クラスごとに各資料の在りかや調べ方などの説明を行う。 ・進路希望先を決定する前に、進路指導室に相談に来るように指導する。 ・3学期に資料の確認、先輩の報告書の確認、進路相談等のための進路指導室利用回数をアンケートで調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各企業が求める人物や適性などをしっかりと、生徒に知らせる。 ・適性検査を実施して、その結果より本人の適性、能力について考えさせる。 ・面接時に本人の魅力や考えを十分に伝えられるように指導する。 ・多くの先生方から面接の指導が受けられるように指導計画を組む。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導室の延べ利用回数 <就職者> 進路指導室 220回 1F選択教室 242回 <進学者> 進路指導室 262回 合計 724回 達成度72.4% 	<ul style="list-style-type: none"> ・一次選考での結果 受験者 131名 内定者 127名 不合格 4名 内定率96.9%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年末に進路指導室の利用について、各クラスごとに進路指導室および選択教室にどのような資料があるか、また、その調べ方などのガイダンスを行った。 ・常日頃より生徒への声かけをして、進路について考えさせるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般常識テスト、クレペリン検査の実施。 ・外部講師および職員による面接指導。 ・求人票受付時の聞き取りに企業が求める人物・適正の把握および学年との情報の共有化。 ・企業への求人依頼。
評 価	<p>C</p> <p>目標には達成しなかったが、就職者の約62% 進学者の約66%の生徒が進路の選択にあたり、進路指導室の担当者と相談をしたり、情報の提供を受けたと回答した。</p>	<p>A</p> <p>一次選考での不合格者数が4名となり、目標を達成した。</p>
学校関係者の意見	○学科の特性を活かした就職先を開拓してほしい。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットやHPの確認で済ませたのか、進路指導室で資料の確認をしていない生徒が、就職者で14人、進学者で35人が進路指導室の利用をしていない。 ・就職では、企業のパンフレット等を調べた生徒の数が少ない(14件)ので、より多くの情報をとらえるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上に努める。(学期ごとの基礎力診断テスト) ・各種テストや検査結果の情報および生徒情報・企業情報など学年との連携を強化する。 ・早い段階で明確な進路目標を設定することによる意識付け、取り組み、指導を強化する。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

平成29年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -4-

重点項目	特別活動		
重点課題	学校行事および部活動の充実		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会、尚美展、球技大会などの学校行事の満足度アンケートの結果は、概ね80%を超えている。各行事前にはアンケート調査を実施して、代議員による生徒議会も行っているが、事前準備や議会の活性化など十分とはいえない現状にある。 ・部活動等への参加は活発で、年度当初の特別活動加入率(生徒会を含む)は98%(兼部を含む延べ人数)を超えている。しかし、中途退部や自主性が低いなどの悩みを抱えている部も散見される。昨年度は約35名の退部者(内7名が部変更)が出ているが、今年度も昨年並みに抑えたい。 		
達成目標	主たる行事において満足と回答する生徒の割合		部活動変更生徒数
	85%以上		40名以内
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・行事ごとに、アンケートの集約を行い、満足度を調査する。また、代議員を通じて、事前アンケートを実施し、生徒の意見集約に努め、活動および生徒議会の活性化を図る。 ・各行事における教職員の体制を常に検証して、連携の強化と協力体制の維持に努める。 ・各集会や生徒会による広報活動を通じて、大会日程および成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒のやる気を高める。 ・各部の部員数調査を年度当初と年度末に行い部活動を変更した生徒数を調べる。また、各顧問と連携を図りながら、部活動の活性化と充実に努める。 		
達成度	満足(A)+ほぼ満足(B)で評価 <ul style="list-style-type: none"> ・運動会 A50.0%+B42.0%=92.0%(昨年比-2%) ・尚美展 A37.3%+B47.0%=84.3%(昨年比+15%) ・球技大会 A41.6%+B43.3%=84.9%(昨年比-3.8%) 		部活動変更生徒数 1学期→3学期(4/21~) 30名退部(7名部活動変更) <昨年35名退部(7名変更)>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事の内容について、生徒会執行部による事前アンケートを全生徒に実施し、その結果を踏まえて計画を作成する。行事後、取り組みや満足度を全生徒を対象に取り、次年度への反省にする。 ・全校で行っている表彰伝達や壮行会。 ・本校生徒の活躍について新聞に掲載された記事の紹介。 ・部活動顧問および職員による生徒指導。 ・職員朝礼で上位の大会成績を報告。 		
評 価	A <ul style="list-style-type: none"> ・運動会の満足度約92% 天候に恵まれたため高い満足度であった。 ・尚美展の満足度約84.3% 120周年行事と重ねて行ったため大変盛り上がった。 ・球技大会の満足度84.9% 生徒会の運営もスムーズに行われ、天候にも恵まれた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度、全体で30名の生徒が退部し、そのうち17名が新たな部活動に変更した。 ・全体では、高い加入率となっている。
学校関係者の意見	○生徒数が減ってきており、部活動での生徒の確保が難しくなっている。地域と連携して、裾野を広げる必要がある。		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事での事前準備を十分に行う。 ・生徒会で各行事の反省点をまとめて次年度に申し送るとともに、改善点を考察する。 ・特活部の教職員間の連絡を密にし、仕事が良いに行えるような協力体制を構築する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・2年次以降の転部者数の確認とその対応。 ・女子運動部の活性化。 ・的確な指導方針に基づく人格の形成。 ・1年生の途中退部者の減少を目指した面接等の充実。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	PTA活動	
重点課題	PTA活動の活性化	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAの役員会は、参加率も向上し積極的な活動が行われている。 ・PTA各行事への一般会員の参加が少ない。 	
達成目標	PTA行事(授業参観・教養講座・進路研修会・自然探勝会)への一般会員の参加数を増やす。 昨年度より10%の増加	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA通信や学校のホームページを利用して活動を積極的に発信する。特にPTA行事の際は案内を各家庭に送るだけでなくホームページを利用して情報を受け取ることができるようにする。 ・一斉メールを活用した情報の共有を推進する。 ・役員より一般会員への行事参加のはたらきかけを積極的に行う。 	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA行事の一般会員参加数比較、(平成29年度、平成28年度) 授業参観(135、104)、教養講座(16、11)、進路研修会(11、12)、自然探勝会(0、1)。 以上より、総参加人数を比較すると(162、128)で34名の増加で前年より26.6%増加。 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・行事についての連絡を、案内状だけでなく事前に一斉メールや学校ホームページを利用しておこなった。 ・担当役員から、行事参加のはたらきかけを積極的に行った。 	
評 価	B	個々の行事では参加者が減少したのものもあるが、全体では目標の10%を上回った。
学校関係者の意見	○一般参加者の増加に努めてほしい。	
次年度へ向けての課題	PTA活動へ関心を持ってもらうことを目標に、一般会員への行事参加を増やすことを目標とし一定の成果を得た。この結果が広くPTA活動への興味・関心・理解へのきっかけになって活発な活動が行えるよう、さらに活動内容についての検討を行っていく必要がある。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)